夕刊
磐城新聞
六月十八日發行
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩は北東の風曇
明日は北東の風曇 一時晴

濃翠漫想 六
赤井嶽男

平市會議員の選擧は愈よ明十九日の告示を轉機として本格の運動に入るので一票の獲得に血眼になる各候補の焦慮さる事乍ら、定員に一倍半する五十名近の候補者からモーションを掛けらるる有權者とした處で席温まる暇無き賣れつ妓が好かぬ客のお座敷らしい頻繁な電話に滿面つくる憂悶はあらうと云ふもの、之亦一掬同情の値無きにしもあらずである

０

而も氣の弱い處になると總有る緣故情實を辿つて肉迫されると遂い無下に斷ゐ事も出來ず、甲・乙・丙・丁の何れにも不得要領乍ら『解りました』樣な表情をしてしまう事になる。この煮え切らぬ態度が所謂多角形と云ふ奴なので口說き落しにかかつた方では何れもその投票が自分の方へ向いて居る――と獨りぎめの判斷をして疑問符を附け乍らも遂い自己の得票中に計上する

０

いつかも書いた事あるが曾て平町會議員の選擧で『入れて來ました』と云つてオホンとか何とかテレ隱しの咳拂ひをし乍らお膳に着いて爛酎の採れる位やつて行つた匪數を讀んで『之の外にも入れた人があらう』と結局の投票を樂觀した家人が、蓋あけの結果投票の數がお膳より少かつたのに大幻滅を感じ、そこの主婦の如きは『之はまあ何とした事だつぺ』と人目も憚らず大聲あげて號哭涕泣之を久しうした。と云ふウルトラ・ナンセンスさへあつたのである

０

雜誌『法律春秋』の大正十二年八月號に淸水澄博士は――新選擧法は選擧權擴張の目的を以て改正せられたものなるに拘らず依然無記名投票の制を維持したるは擴張の目的に反するが如き感なき能はす。元來選擧人の投票は一の公務なるが故に公然責任を以て爲すべきものにして、其投票は記名にして選擧人自身の氏名を記すべきでなり。然るに從來之を無記名投票と爲したるは選擧人の意思の自由を制限するの虞あるが爲なり、然れば普通選擧制を採用するの氣運に遂したる今日に於て記名なるが爲選擧人の意思の自由を制限することあるを憂ふるは一の杞憂なりと謂はざるべからず。而して之が爲め却つて選擧人の投票の自由を制限する所謂背に腹を代ふるものにして不譲なりと大々的に無記名投票の不可をキメつけて居る

０

古い話ではあるが淸水博士の意見通りにしたら今度の選擧などでは如何に人間性の醜惡さ加減が白日下に展開される事であらうか？

上越から

拜呉、その後御無沙汰致して居ります。只今個人展覽會の作品・揮毫の爲め上越の温泉へ參つて居ります。もう直ぐ歸京の豫定でございます。一枚こんな繪が出來ましたので失禮ですが謹呈仕ります。東京の個展は

七月十三日、十四日
京橋區銀座西ギャラリー・日本サロン

で開催致します、何分大がかりにて約五十點も出品、只今大童で揮毫中でございます。御自愛を祈上ます。匆々

六月七日 島田忠夫

かもめ
細井淸朗

京風はろり夏の朝
白帆ゆら〳〵瀨戸內海
きぎれの上にかもめさん
靑空みあげとまつてた
花の都にあこがれて
遠い國から來はきたが
からだは疲れ弱つたで
波にゆられてやすんでた

6月19日
△空海高野山を眞言宗の道場とす（弘仁七）△日米通商條約に幕府調印す（安政五）△幕府大船製造の禁を解く（文久元）△萬國郵便聯合に我國も加盟す（明治一〇）

林宰相
珠雲 小野務平

漫使江湖激濁波
由來爲政苦思多
不知排得萬難充
時者驍名今奈何

新刊紹介

△磐城公友特輯號 市になるまで（一部共二十錢） 平市南町七一其社）

磐城歌壇
新妻久滿夫選

『椿のうた』 國玉喜郷

○人の世にありへて智慧のおろかさにすがるを嘲笑み散るつばきかな
○寂光のさ中に咲きてぺに椿狂戀の焔に身を灼きて散る
○聖人山にかくれてあるごとき白き椿も中にまじれり
○戀死なばたゞ灼熱の戀の焔に身を燒きて散らむ椿となりて

『酒に住む』

○酒の神に祈らく我の青春の血はつきむとも嘆かざらまし
○湧き沸ちはては身內の血汐さへ涸れつくすとも酒は愛しき
○酒よいざもろて火となれ若き日の戀の怨みも焚きや捨てまし

本評 前評に同じ。興奮の途上にありて一氣に詠み進めてゐるが、もう少しさまして更に新たに心に喚び起した材料を詠みこめばもつとよい歌になるであらう。

講談 妖刀流轉（えうとうるてん）
(117) 邑井貞吉演 佐々木令弼吉畫

魔劍の惡業（二）

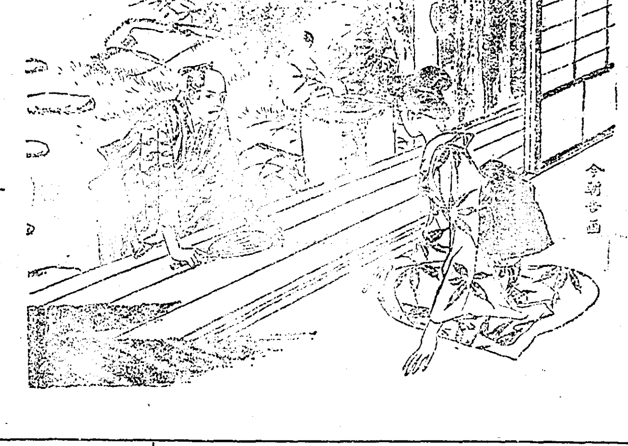
文助の熊吉が、主人軍藏の家へ入らうとして、遠藤嘉平次の裏手を通りかゝると、耳に入つた軍藏の聲、ハテナと思つたから、熊吉は垣根の外から覗いて見ると、庭傳ひに入つて來たものと見へて、酒氣を帶びた軍藏が、團扇を片手の浴衣がけで、嘉平次の家へ上り込んでゐる。

對手になつてゐるのは御新造のおちかばかり、新七は遙か離れた自分の部屋に居ると見へて、外には誰も居ない樣子。

何だい口では立派な事を云つて乃公を叱りながら、矢つ張り自分では主人の不在には締はず遠藤の御新造の所へ來てゐるぢやアないか、鍵だせ樣子を見てやらうと文助が、木陰に身を潜めて居る。

廣瀨軍藏いゝ鹽梅に宿慕も發れず、扶持に有りついて評判も良く此の儘辛抱すればよかつたものを、尻の暖まるに連れ持前の不良な根性が頭を持上げて來る、とりわけて何の因果か、目と鼻の近所にゐる先嘉平次の女房おちかの容色に悉く心を奪はれ、益々煩惱の募つた所へ、文助の熊吉に油をかけられ、元々酒を飮むと分別を忘れる男、文助が出て行つた後只一人で、暫らく考へて居たが、何うもじつとして居られなくなつた、そこで團扇を片手に涼みながら、ブラリと庭を出ると遠藤の家の裏手になる、垣の外から覗いて見ると、座敷にはおちか唯一人居るつ限り、いよ〳〵軍藏が堪りかねまして、强い力に惹かるゝ如く思はず知らずフラ〳〵と庭先から入つて來た。

おちかは不意の事とて驚きましたが、見れば軍藏大分醉つてゐる樣だ、いさゝか眉へ皺を寄せたが、知らぬ顏ではなし、何とも云はれない、元來物腰の優しい婦人



に來た』
か、實は斯樣で御座ります

ち『オヤ何誰かと存じましたら、廣瀨さんで御座いましたか』

軍『アハヽヽ、イヤ突然に斯樣な處から推參致したのも御安心立てで何うぞ御新造御勘辨下さい、然し毎日々々お暑い事で御座るの』

ち『ほんに左樣で御座ります、モウ御夕飯はお濟みになりましたか』

軍『されば、只今濟ませまして、いさゝか斯樣に酩酊致した次第、然し飯を食へばとて酒を飲めばとて獨身生活我ながら哀れなもので御座りますよ』

ち『何かと御不自由で御座りませうネエ、良人も始終そう申して居りますのよ』

軍『イヤ御新造そう云つて下さるのは貴方ばかり、毎日お心にかけられての御親切、廣瀨軍藏死すとも忘却は致しませぬ、とハヽヽイヤ本當で御座ります、それはそうと御主人は御不在で』

ち『ハイ一寸御城下の研師六郎兵衛の許まで十內を供に連れて參りましたが、程なく歸る事で御座りましよう』

軍『ホヽウ研師へ、扨てはお腰の物のお手入れで御座りますな』

ち『それが軍藏樣、お聞きなされませ、不思議な事もあるものでは御座りませぬ』

と、おちかが軍藏に話した處によりますと、例の十內が手に入れて持參した名刀を清めの爲めに六郎兵衛の所へ研ぎにやつたところ不思議なるかな六郎兵衛がその夜から大熱、家の者が心配して種々手當を加へ半月程病つて漸く熱もさめ身體も本服したので此刀の研ぎに取掛らうとすると又も惡寒がして熱が出る、再び半月ほど病つて直る、又研ぎ始めると發熱、それはかりでは無い毎夜々々刀の惡靈とも思はれる恐ろしい夢に襲はれるといふ話

廣告

東西會社の新商品
石鹼 齒磨 齒刷子
連鎖店にあり
良い電球は眼の護り
國産 トウランプ

おでん
一平（イツパイ）
電話二六三番

カメラ材料
藥品 百貨
平電話3番
西村屋藥局

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

女子從業員大募集

一、勤務先 三重縣四日市々外日永 東洋モスリン株式會社三重工場
一、事業 毛絲紡績
一、資本金 壹千五百萬圓
一、事業主 東洋モスリン株式會社 取締役社長 門野重九郎
一、現在工員 男七〇名 女二八〇名 計參百五十名
一、工場現況 採光通風冷房暖房ノ近代的裝置ヲ施セル最新式優秀工場ニシテ目下五萬坪ノ敷地ニ大增設中、位置ハ山紫水明絕對健康四日市々外ニ在リ伊勢灣ニ面シ、伊勢大廟ニハ僅カニ時餘ニシテ詣ズルヲ得
一、申込所 各職業紹介所又ハ本縣募集駐在社員へ
一、雇入條件
求人數 女子五〇〇人
年令 滿十二才以上、二十才未滿
住込 會社所定ノ完備セル寄宿舍ニ收容ス
敎育程度 義務敎育終了以上タル事
體格 身長四尺四寸以上ニシテ身體壯健ノモノ（會社所定ノ體格檢査ニ合格スルヲ要ス）
必要書類 志望者ハ戸籍抄本、學校卒業證明書及親權者ノ承諾書ヲ要ス（承諾書用紙ハ會社ヨリ交附）
給料 尋常小學校卒業者—初日給四十三錢乃至四十五錢 高等小學卒業者—初日給四十五錢乃至五十錢（但シ年令ニヨリ考慮ス）ヲ支給シ技倆ニヨリ年二回乃至四回昇給セシム尙一ケ月（會社ノ休日ヲ除ク）ヲ通ジ無缺勤者ニハ皆勤賞與ヲ支給スル外年二回（六月、十二月）相應ノ期末賞與ヲ支給ス
手當金 當分ノ間日給ノ外物價騰貴手當トシテ月額金五十錢ヲ支給ス
食費 一日金十五錢ヲ要ス
支度金 採用決定者ニハ應募地ヨリノ支度金（旅費相當額、辨當代）ヲ支給ス、コノ外作業服代金貳圓支給、但シ旅費作業服代支給ハ勤續一年以下タルトキハ本人負擔タルコト、別ニ小使トシテ金二圓ヲ呈ス
勤務時間 交代番九時間、定番十時間ナルモ兩番トモ三十分休憩、但シ定時間外就業の場合一時間ニ對シ日給ノ一割ヲ割增加給ス
敎育 知事認可靑年學校令ニ依ル實科女學校ノ設備中
賃金支拂 毎月二十五日締切（前月ノ二十六日ヨリ當月二十五日）ニテ月末現金ニテ支拂フ、但シ寄宿工ハ通例金貳圓以內ヲ手渡シ殘額ハ貯金ニ積立セシメ年六分ノ利子ヲ附ス、家庭ヘ送金ノ場合ハ諸費用一切會社負擔トス
◎雇入條件合格者ハ！
雇入條件ニ合格セル三名以上ノ女子ヲ一組トシ附添一名（希望ナレバノ女子ノ父兄ニテ可）ニテ當工場ヘ御來社アリタシ（附添者ニハ旅費實費支給、神宮參拜斡旋）
昭和十二年六月
三重縣三重郡日永村
東洋モスリン株式會社 三重工場

時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……
市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行—直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂 磐炭病院前
鈴木醫院
「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）

優良品
吸入用酸素 純度99%
モノサシ マス ハカリ
體溫器 寒暖計
開內藥局
電話四〇番

耳鼻科 咽喉科 專門
平市南町一六番地
大和田醫院
電話一七〇番
（入院隨意 病室完備）

御贈答品には
ニンベン
かつをぶし
イ宍戸屋商店
平市四丁目
電話（鰹節）二一五番 （鮮魚）四〇七番

外科、內臟外科
エツキス光線科
新設……產婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
平市田町
入院隨意
安齋醫院
電話四七五番

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

明朗な初夏を彩って 選擧風景本格に展開

明十九日告示早々の立候補届出に 看板の街頭進出ご挨拶文書の氾濫

平市會議員選擧の會場 投票の日時及び選擧すべき議員數は愈よ明十九日背沼臨時市長代理によつて告示され、候補者たらんとするものは告示日の十九日より選擧期日前七日目の七月三日迄に二百圓又は之に相當する額面の國債證書を供託し其旨を市長に届出づる事になつてゐるが。何れも滿を持した候補者揃ひとて告示即日何名かの届出者あるは勿論、特殊の事情ある一、二を除く外二十一日(月曜)の大安日を卜し大部分出揃ふものと觀測される斯くして街頭に雪崩れ出る立看板と挨拶狀、推薦狀の文書洪水に、選擧氣分は俄然ピッチを上げ、茲に凄慘なる選擧戰は舊平、平窪の一圓に亘つて展開される事であらう。因に看板は事務所掲出の板看板とも一候補十五本平均、總員四十五名と概算して六百七十五本文書は全有權者に對して發送するものと特殊關係の親ひ打ちと方針が必ずしも一定せぬので差當り目算が立たぬが、第二次第三次の分を併せ、各候補とも全有權者(約五千四百人)に一回の數と假定すると實に二十四萬三千即ち濱三郡に於ける衆議院議員選擧有權者の三倍强と云ふ夥しい數に上るわけで短時日の間に之を消化する平局としてはまさに年賀狀取扱期間中の如き非常時風景を現出するものと豫想さる

「各方面を網羅して」 「平愛市同盟會生る」

會長には水野元郡長

既報—明朗市會を建設せんことをスローガンとする平愛市同盟は十七日午後一時から平署會議室に市內各官衙長、法曹團、公私立學校長、方面委員、公共關係など六十餘名を網羅して結成された、規約制定、役員選任の結果 會長水野虎三郎、副會長に藤井一、山崎忠兵衛の三氏と委員大森勇氏外六十名を擧げ更に實行委員を選んで市當局と合同で具体的協議をなす筈だが差し當り印刷物、立看板で選擧の徹底を期すことゝなつた

大嶺團長辭任受理

平青年團長大嶺庫氏が辭任したので團では十七日午後八時から住吉屋本店に幹部會を開いて辭任を受理、後任團長は選擧後の總會で決定することゝなり團長代理事務は齋天目副團長が扱ふ事となつた

磐女校內競技 四年優勝旗獲得

磐女の校內陸上競技大會は十七日終了したが各學年別の得點は 四年六〇 三年五三 二年二四 一年一一 で優勝旗は四年の手に歸した、各種目の記錄保持者左の如し △六十米八秒三—四年木村トシ △百米一三秒三—三年北郷春江 △二百米三〇秒三—三年馬目キクヨ △四百米繼走五六秒五—四年木村 薄葉 織田 五十石 △走高跳一米三〇A—四年薄葉サチ子 △走巾跳四米八八—四年五十石剛子 △三段跳一〇米三五—四年木村トシ △バ球投二四米四九—四年北村コト

申立の適格なし 破産を宣告された 山田代議士抗告

代議士山田六郎氏は横濱市渡邊文三郎氏から一萬二千圓の負債未拂ひで去る十日破産を宣告されたが十八日左の理由で平區に抗告した

理由

渡邊文三郎氏の債權は既に時効にかゝり消滅したもので申立の適格なく因て叢の破産宣告は失當である

熊田部長赴任

。。。。部長に昇進原町署勤務となつた平署特高刑事熊田義春氏は廿一日午前十一時七分發で赴任

小名濱町議當選者

小名濱町會議員選擧は十七日行はれたが實投票二、一五二 棄權一七八 當選者左の如し (◎再○新)

(◎一二九)立花雄七(◎一〇九)西丸猛(○九九)志賀要平(○九三)木田谷平(○八七)立花秀吉(○八三)丹清治(◎七九)小松寅兵衛(◎七九)福尾伊太郎(○七八)三代義勝(◎七八)藤社重吉(◎七八)飯塚藤右衛門(○七七)菅原勳(◎七六)高木惣治(○七六)松本房之助(○七四)野崎昇太郎(○六五)後田義之助(○六三)野崎貞行(◎六一)岡山道喜(○六一)比佐政種(○五六)長瀬要(◎五六)小濱長太郎(○五三)近藤安雄(○五三)田中權次郎(○五二)小野長松(次點)五二菅方長作 四二高木武士 三七內山伊吉 三五堀越定吉 三四丹計之 三三津川春吉 三二小野忠春 三〇小野德次郎 一六菅原彌作

平窪投票分會設立許可さる

來月十日の初市會會議員選擧に際し平市では舊平窪村に投票分會を設けることゝなり縣に指揮を仰いでゐたが十六日許可された

發育は申し分なし アユの解禁日近づく

早くも躍る太公望の胸

夏の陽にきらめく銀鱗の快さ!それは太公望だけが味へる『夏のスリル』である—一七月一日——あと二週間に迫つた鮎解禁日を前に地方の釣師は早くも漁況の調査其他に乘り出してゐる、ここ二、三年不漁のあとをうけ今年の發育振りはどうか?この道の大家連の話を綜合すると

一、昨秋の産卵期から孵化期にかけて洪水のない結果産付けられた卵は完全に孵化した

二、今年の冬は非常に暖かかつたので仔鮎は完全に海で育つた

三、立春後溫晴が續き適當の降雨があつたので發育がよく溯上に申分なかつた

四、最近も出水を見るほどの大雨がなかつたので若鮎はどし/\溯上してゐる

等々、絶好のコンデションに太公望連の胸は早くもワク/\としてゐるのだ

「先づ初日だネ」

地方の釣場を語る =岡山寫眞館主=

地方の釣場は何と云つても鮫川、木戸川や鮫川支流の四時川(川部村小川地內)が先づ太公望の覗ふ處である『この道の大家』を以て任じてゐる南町岡山寫眞館主らの斡旋によつて近年東京方面からの釣師が續々入り込んでゐる、以下岡山さんの話

——鮫川でも上遠野村大瀧地內から下流は來月一日の解禁だがその上流は十六日になつたさうである、木戸川はやはり來月一日からでここは國道の方の下流がいい、この地方の釣師は大部分鐵道員で友釣(上流)ドブ釣(下流)の二つに分れ九月末頃の産卵期迄は續けられるが、いいのは矢張り解禁當日である、今年は暖かさが早く來たので發育も申し分ないから……

磐陽野球延期

東朝平通信部後援の磐陽野球大會は來る二十日催す筈であつたが都合で二十七日に延期され、准決勝並に決勝は來月四日擧行する

四倉濱大賑ひ

末が時雨時だと云ふのに四倉濱には(十五日)郡山日東紡績女工一、二〇〇名(十七日)本宮製糸女工四五〇名(十八日)福島日東紡績女工一、二〇〇名の季節外れのお客さんが入り込んだので町當局はテンテコ舞ひ、この分なら夏仕度も早目にせんにやならんゾ——と嬉しい悲鳴をあげてゐる

四倉繭市場 —十七日取引—

(白繭)高五、八五 安五、二〇 剛五、五七 出廻二、六二八貫 價額一四、五五〇圓七五錢 (黃繭)五、六八 出廻二四貫四八〇 價額一三九圓二五錢

村民擧つて…… 在滿感謝デーに活躍

大浦磐中生感謝さる

大浦村大浦學友會では去る九日(端午の節句)を在滿感謝デーとし尚武の印刷物と徽章を全村五百戶に配布す五錢宛の寄附を仰いだ配金を同村出身在滿兵十三名並にその家庭に分宛慰問したが發送金六圓四十五錢を佐伯部隊慰問費にして背ひたいと十七日福島隊區司令部に送付して來たこの催しに際し同村から磐城中學に通學してゐる四年生以下十五名はこの日野外演習後疲勞も何んのその夜おそくまで學友會員に加はり援助したものだつたが鄕軍分會長始め村當局も熱心に磐援村民擧つて賛成豫期以上の成績を擧げたが學友會は磐中生が犧牲的に應援してらしい吳れた事は大井川中佐(現福島司令部勤務)の教訓の賜ものだと感謝の意を表してゐる

娑婆の風僅か四時間

懲り性ない松本忠信

双葉郡熊町生れの元自動車助手松本忠信(三)は去月一日市內古鍛治町石井自動車の車庫に忍び込み運轉手木田議の衣類(十七圓)を拂つて平署に擧げられ十七日夜十時頃嚴重訓戒の上一應釋放されたが懲り性なく僅か四時間足らずの今曉二時近く小川村信用組合事務所の鍵をドライバーで破つて侵入、物色中事務員に捕はれ再び平署留置場へ

自動車々体檢査

濱通り各警察署管內の自動車々檢査は二十四日から三日間市內八幡小路檢査場に行はれるが受檢三百二十台の豫定

野兎病で死亡

澤渡村下市萱消防伍長阿部安信(四〇)氏は二月から野兎病にかかり福島市大原博士の治療を受けてゐたが去月二十九日遂に死亡した、野兎病の犧牲者は地方では珍

粹士受難

一本七十五錢也

高物價時代に處して平藝妓の玉代値上げ

平藝枝屋組合では近來の高物價時代に處して保健衛生及び藝道向上の施設を改善し尚は服装その他市制地に於ける藝妓の体面を維持する爲過般來玉代の値上げに關し各地との振り合ひに就て詳細なる調査を取纏め値上げの程度乃至實施時期に就て夫々考慮中であつたが、昨十七日夜藝妓屋、料理屋組合の會合を各別に開き協議の結果藝妓屋組合の原案通り從來の一本六十七錢を八錢値上げの七十五錢に改正來月一日から實施する事に決定、料理屋側でも之を承認した

海外に石城を懷しむ

在米佐々木修一氏の昔語り讀後感

○△生

登場人物が悉く地方關係者だけに書けば興味が津々として盡きぬが、先づ此邊で打ち切る事とし、以下各篇を通じて特に讀者の關心を唆る部分を抄錄しやう

×

突然ある横町の所で、白の夏服を着た男に出會した。兵學校の生徒か何かだと思つたので、碌々顏を見ずに通り拔けやうとすると

『おい三文ちやねえか。どうしたんだ。今時こんな所をうろついてるなんて』と、頭から浴びせかけられた。見るとそれは私の無二の親友である吉田金作と云ふ男だつた

『何だ、何處の馬の骨かと思つたら君だつたんか』と『僕は兎も角、君は何を今頃こんな所をうろついてるんだ』と、オーム返しに反問してやつた。すると『何を云つてやがるんだ三文、君こそ可笑しいぢやないか、大体君は今頃アメリカの田舍新聞の紙屑籠の中にでもちぢこまつてゐるとしか、僕は思つて居なかつたんだからな』と毒づいて來た。

四年振りに再會した親友に對する形式の禮儀を超越した挨拶に、云ひ知れぬ嬉しさを感じた(竹馬の友吉田と私)

吹く風を勿來の關から北五里。參觀交代の御殿様の行列を湯風呂の中から拜めるのは、日本六十餘州の温泉場の中箱根の湯本と此處ばかりだと、嘘か眞實か昔から云ひ傳へて居る福島縣湯本は昌ちやんの出産地だ。生れたのは明治の十七年で參觀交代の跡を絕つて久しい後の事だから、まさか御殿様の行列を見乍ら生湯を使つた譯ではないが、兎に角生れて最初の入湯は此の『萬病に効ある』靈湯でやつたのだ(問屋の昌ちやん)

其年に私逹は四年の生徒と協力して校長植竹先生の排斥運動をやつた。其時仲裁として警察署長や縣會議員や郡長らが六七人やつて來て

『私共は官職は別として單に有志としてやつて來たのです』と云ふと比佐君は例の悶々しい態度で『一体有志と云ふ言葉は如何云ふ意味でありますか其意味から解釋してもらつた後で無くちやあ皆さんの御意見を拜聽する譯には行きません

——此項未完——

十九日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前—— 後二、四〇
干潮 前七、三五 後六、一五

新六月十九日 土曜
舊五月十一日 丁丑 先負 危 柳宿

諸判定總本部 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神殿館

▲一白 精根盡きて困厄甚しかるべき日休養が專一▲二黑 短氣は損氣下手に動きて足ふみ外す事あり▲三碧 剛情我まんも時に依るべし溫順にするが安全▲四綠 雉も鳴かずば擊たれまじ跳躍は控ゆべき日▲五黃 寄するなみ常に靜かならず突風起りなみ狂はん▲六白 萬事滯りなく進展し實入りも多き利得の日▲七赤 平生の勤勉はむくはれて家業益々繁昌する日▲八白 雨催ひの足駄掛は骨も折るれば安心もあり▲九紫 德高ふして信あり家道はん榮の兆精勵を要す

人夫募集
一、勤め先 植田町
一、日給 一圓四、五十錢(食費一日五十錢を要す)
健康な方なら何名でも可
尙ほお世話下すつた方には一人に付一圓の薄謝を呈します
(姓名在社)

男女學生夏服
髙島屋の洋服
新柄背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高島屋 平市二丁目 電話三八六番

上原家政婦會
平市紺屋町一一
會主產婆 上原通子 電話二二二番
產婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 大岩俊雄
入院隔離病室完備 木村病院
平市新川町十九番地 電話一六四番

耳鼻咽喉科 高柳醫院
平驛前(電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)

お醬油は……ヤマフル
醸造元 山崎合名會社
福島縣平市 電話(營業部一〇番 本店二七番)
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎